

092

contents

香月泰男展
平成16年度の展覧会紹介
年間スケジュール

天花
TENGE
花



香月泰男(1911-1974) 「〈私の〉地球」 1968年 山口県立美術館蔵

特別展

[開館25周年記念]

没後30年

香月泰男展

—〈私の〉シベリア、そして〈私の〉地球—

4/6_{tue} ~ 5/23_{sun}

表紙作品解説

香月泰男(1911-1974)「〈私の〉地球」1968年
油彩・画布 111.6×162.1cm 山口県立美術館蔵

この絵は、作者の郷里、山口県三隅町を航空写真のように真上から見おろす構図で描いたものです。黒いドーナツ状の部分は山並み、その中に見えるいく筋かの線は町を流れる川。上部の青い部分が仙崎湾で、その下に組んだ手が見えます。これは作者の手。香月美術館長の坂倉秀典氏によれば、この手は、作者がよく瞑想するときにしていた手の組み方だったといえます。町の真なかに寝ころんで瞑想している自分をイメージして、その手の部分だけを描いているのです。手の大きさから想像すれば、ふるさとには足りないほどの小さな町。その小さな町の山並みごしに広がるのは外の世界。そこにはこんな地名が書き込まれています。シベリア、ホロンバイル、インパール、ガダルカナル、サンフランシスコ。すべて戦争に関係した地名です。戦争にとられたあとといういろいろあったけれど、今は、こうしてふるさとに帰り、好きな絵を描いて過ごせる日常。その幸福感を感じながら来し方の自分を回想する。そんなときふるさとの野山に寝ころんで空を見ながら瞑想する自分の姿のイメージが浮かんできたのかも知れません。(学芸専門監 安井雄一郎)

作者のこぼれ

周囲の山の彼方に5つの方位がある。ホロンバイル、シベリア、インパール、ガダルカナル、そしてサンフランシスコ。いまわしい戦争にまつわる地名に囲まれた山陰の小さな町。生家があり、今も絵を描き続けている「三隅」。それが私の地球である。

平成16年度の展覧会紹介

[開館25周年記念]

平成大修理完成記念

周防国分寺展—歴史と美術— 6/25~8/1

山口県内屈指の文化財を誇る防府市・周防国分寺金堂の平成大修理完成を記念して、周防国分寺の文化財を中心に、その歴史に関わる文化財を一室に会し、千年以上にわたる歴史を持つ周防国分寺の実像にせまります。



「木造四天王像(持国天)」
周防国分寺

大きなやきもの 11/2~11/23

第2次世界大戦後、陶の世界に新しい波が起こりました。それは、一言でいえば、生活の用途を離れるということでした。「用」から形作られ洗練されてきた陶芸は、「用」から切り離されることによって、土を素材とした造型へとその性質を変えていくこととなります。そのひとつの結果として、作品の大型化があげられるでしょう。土と直接向き合い形そのものを追求する試みは、必然的にダイナミックなスケールを必要としたのです。

このたびの展示では、当館所蔵のクレイワークから、ピーター・ヴォーコスや、三輪龍作、三輪和彦等の大きな作品を紹介いたします。



三輪龍作 「柔らかい海Ⅱ」
1996年 山口県立美術館蔵

雪舟と雲谷派(常設展示) 11/2~11/28

室町時代、大内氏のもとに繁栄を誇った山口を活躍の場とした「画聖」雪舟。この展示では、重要文化財三点を含む当館所蔵の雪舟画と、雪舟の画風を受け継いだ毛利藩の御用絵師、雲谷派の水墨画の名品を紹介いたします。



雪舟等楊「山水図巻」室町時代 山口県立美術館蔵

[開館25周年記念]

ピカソ展 幻のジャクリーヌ・コレクション —イメージの変貌— 2005 1/6~3/13

パブロ・ピカソ(1881-1973)。あまりにも有名な、20世紀の巨匠です。少年の頃からその才能で周囲を驚かせたという彼は、生涯を通じて新しい表現を求め続けました。その制作分野は、絵画、版画、彫刻、陶芸と多岐にわたり、その創作意欲は91歳で没するまで決して衰えることはなかったのです。

衰えを知らぬ創作欲の証のように、ピカソは80歳のときに、40歳以上年の離れたジャクリーヌ・ロックと結婚します。南仏の邸宅で、彼の最後をみつめたのも

ジャクリーヌでした。ピカソ晩年の作品には、きりりとした目元とまっすぐの鼻筋が印象的な、ジャクリーヌの相貌を持つ女性像がしばしば見られます。

今回の展覧会では、ピカソ最後の妻であるジャクリーヌ夫人が相続したコレクションから、油彩やデッサン、彫刻など約130点を紹介します。ジャクリーヌの肖像などの人物像を中心に、ピカソの紡いだイメージの変貌を追います。いずれの作品も日本初公開。どうぞご期待ください。

[開館25周年記念]

没後30年

香月泰男展

〈私の〉シベリア、そして〈私の〉地球

2004年4月6日(火) → 5月23日(日)

休館日 月曜日 ※ただし5月3日(月)は開館

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

観覧料 一般 730(620)円 学生 510(410)円

()内は20名以上の団体料金

18歳以下と70歳以上および高等学校、盲・聾・養護学校に在籍する方等は無料

主催 山口県立美術館・朝日新聞社・NHK山口放送局・YAB山口朝日放送

協力 香月家 三隅町立香月美術館

この展覧会は香月泰男没後30年、25周年の記念行事の一つとして開催し、香月泰男は1911年に山口県三隅町まれ、少年時代から画家を志し、東京学校(現東京藝術大学)を卒業後、美術を務める一方、美術評論家の福島郎の知己を得て、国画会展や文部省展などに出品しました。43年、召集さ中東北部へ動員。2年間、ハイラル



「父と子」1967年 個人蔵



「草上」1950年 個人蔵



「朝陽」1965年 山口県立美術館蔵

第1章 戦前から戦後へ

～後期様式への道のり1931-1959～

生涯のテーマに行き着くまでの過程を紹介

東京美術学校時代にはじまる香月泰男の画業は、その後いくつかの作風をへてそれらの集大成ともいうべき1959年以降のスタイルへと到達します。これがシベリア・シリーズのスタイルです。第1章では、香月芸術の独自性をもっともよくあらわれるこのスタイルに至る前史として、美校時代から戦前戦後をへて渡欧後しばらくまでの作品を紹介します。

第2章 〈私の〉シベリア

ライフワークとなったシベリア・シリーズ全点を体験順に紹介

香月泰男は旧下関高等女学校在職中の1943(昭和18)年に応召、旧満州国ハイラル市にあった第19野戦貨物廠に動員されました。その後、敗戦でシベリアに抑留。2年間の収容所生活をへて1947(昭和22)年に復員します。シベリア・シリーズは、この自らの戦争・虜囚体験を、復員して亡くなるまでのほぼ4半世紀をかけて描き続けた57点の油彩画連作です。第2章では、彼のライフワークともなったシベリア・シリーズ全57点を制作年順ではなく体験順に紹介します。

開館
ます。
に生
美術
術教
繁太
美術
れて
に駐

屯後、45年敗戦と同時にシベリアの収容所に送られ、47年5月に帰国するまで飢餓と強制労働、酷暑の生活を強いられました。その体験が、代表作となるシベリア・シリーズを生み出すこととなります。帰国後は、ふるさとの山口県三隅町に居を定めてシベリア・シリーズの制作に打ち込むかわら、ふるさとを「私の地球」とよんで三隅町の自然や風景、身近な家族、動植物を愛情あ

ふれるタッチで描きました。

本展では、初期から晩年までの油彩画、水彩、素描、オモチャ、テラコッタなど約180点の作品を紹介し、香月芸術の美術史的意義を再検討します。



生前の香月泰男画伯

関連イベントのご案内

講演会「香月泰男とその時代(仮題)」

4月18日(日) 14:00~15:30

入場無料・先着80名

【講師】河田明久(早稲田大学講師)

会場:美術館講座室

学芸員によるギャラリー・トーク(申込不要)

4月11日(日)、25日(日)、5月9日(日) 14:00~

展示会のチケットが必要です。

学校の先生のためのギャラリートーク(申込不要)

4月10日(土) 14:00~

授業への活用を考えたギャラリートークです。学年・教科をこえてご参加ください。

集合場所:美術館エントランスホール

※ギャラリートーク後、交流会(15:00~)を予定しています。

ワークショップ

「カツキカラーを土からつくろう」**要申込**

5月15日(土)、16日(日) 10:00~15:00

香月の作品に使われる色の絵の具を土から作ります。

【講師】栗田宏一(美術家)

募集人数:各日15名(定員を超えた場合は抽選となります)

対象:小学生から大人まで

会場:美術館講座室

申込締切日:4月15日(木)

親子で楽しむ香月展 **要申込**

4月24日(土)、5月8日(土)、22日(土)

10:30~12:00

ゲームなどをしながら展示会を楽しみます。

募集人数:各日10組(先着順)

対象:幼・小・中学生とその保護者(子供だけの参加も可)

ちびっこルーム(定員制) **要申込**

会期中毎木曜日(10:00~13:00)に無料の臨時託児所を用意します。利用する週の月曜日までにお申し込みください。

それぞれのイベントの申込み方法と問い合わせ

参加・利用希望者の氏名、年齢、住所、電話番号、参加希望日を記入した往復はがき、または電子メールでお申し込みください。

〒753-0089 山口市亀山町3-1

山口県立美術館普及課

tel 083-925-7788

メールアドレス a50702@pref.yamaguchi.jp



親子で楽しむ香月展(参考写真)



ちびっこルーム

お知らせ

香月泰男展の作品展示のため、天花01号でご案内した常設展示の期間が変更となります。また、香月泰男展は常設展示室も使用するため、展示会会期中の常設展示はありません。ご了承ください。

変更後の常設展示

前衛陶芸・現代の木彫 1月14日~4月4日

松林桂月の世界、奈良原一高 2月16日~4月4日



第3章 <私の>地球

~ふるさとに住み、ふるさとを描く~

シベリア連作と並行して描かれた郷里三隅町の自然や生活モチーフの絵を紹介

戦後、生家にアトリエを構えて以降の香月の制作モチーフは、シベリアと、家からの散歩の途中などで目にふれた生活風景や草花にかざられてきます。第3章では郷里、三隅町の自然や生活をモチーフにした油彩画などを紹介します。これらの作品を見ていくと郷里を表現することが香月芸術のもうひとつの主要テーマだったことがわかります。

第4章 人と生涯

書簡・はがきなどの資料、写真パネル、映像記録等を通して、香月泰男の人となりや立体的な紹介

香月泰男がその画業で画家として大成した背景には彼を支援する多くの人びとの存在がありました。第4章では、それらの人びとに宛てた書簡などを通して作品が生まれた背景や香月自身の人となりを紹介します。

4 4/6~5/23
 [開館25周年記念]
没後30年 香月泰男展 —〈私の〉シベリア、そして〈私の〉地球—

5/25~5/28

臨時休館

6 6/1~6/6 伝統工芸新作展

7 6/25~8/1
 [開館25周年記念]
 平成大修理完成記念
周防国分寺展 —歴史と美術—

9 9/9~9/26
 [開館25周年記念]
 第8回やまぐち県民文化祭
第58回山口県美術展覧会

11 11/2~11/23
大きなやきもの

12 12/7~12/12 第57回学校美術展覧会

1 1/6~3/13
 [開館25周年記念]
ピカソ展
 幻のジャクリース・コレクション —イメージの変貌—

5/29 現代の工芸
 宮崎進 画稿の魅力
 7/4 川田喜久治
 7/6

ほとけのかたち
 8/1
 8/3 東松照明
 小さい彫刻たち
 中本達也 絵巻の楽しみ

9/26 古萩の世界 現代のやきもの
 9/28 10/31

11/2 雪舟と雲谷派
 11/28
 案本武雄

現代の写真
 12/12 福田勝治の銀座
 12/14

1/30 萩の茶陶 松田正平
 2/1 植木茂

Information

■休館日
 月曜日(月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館)
 年末年始(12月28日~1月3日)
 5月25日~5月28日

■開館時間
 9:00~17:00(入館は16:30まで)

■料金
 常設展 一般190(160)円 学生120(100)円
 ()内は20名以上の団体料金
 特別展: 別途に定めた料金
 常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、
 盲・聾・養護学校に在学する方等は無料。
 教育文化週間11月1日~11月7日は全ての方が無料。

山口県立美術館
 The Yamaguchi Prefectural
 Museum of Art
 〒753-0089
 山口市龜山町3-1
 TEL: 083-925-7788
 FAX: 083-925-7790
<http://www.pref.yamaguchi.jp/kenbi/index.htm>

